

「コピペ」と「怒りの言葉」

8月9日、長崎市で開かれた原爆犠牲者慰霊記念式典でのことだ。安倍首相の挨拶は広島に続き、昨年の挨拶文とほとんど同じであった。長崎の被爆者は「侮辱」だと首相に怒りの声をあげる。文章をそのままコピーして貼り付ける「コピペ」である。現役の頃、「コピペ」のレポートを書いた学生の処分をめぐる議論したことがある。まさに処分問題なのである。

一方で、被爆者代表の「平和への誓い」は印刷されている文面にはない「怒りの言葉」が続いた。中日新聞は8月10日朝刊1面のトップで、「憲法守れ 首相に直訴」「原稿にない思い切々」と報じた。「憲法をないがしろにする政治家たちを見て、怒りがこみあげてきました」と式典後に被爆者代表は心境を語る。

朝日新聞8月16日「ザ・コラム」にも、当日の様子がリアルに書かれていたので、すこし長くなるが紹介したい。

「今、進められている集団的自衛権の行使容認は、日本国憲法を踏みにじった暴挙です」と被爆者代表が述べ、会場にいた大久保真紀編集委員は、異変を感じたという。

異変は続く。「日本が戦争ができる国になり、日本の平和を武力で守ろうというのですか。武器製造、武器輸出は戦争への道です。いったん戦争が始まると、戦争は戦争を呼びます。歴史が証明しているのではありませんか」。式次第の文面にはない怒りの言葉が、被爆者代表の女性の口から発せられた。

大久保編集委員が「平和の誓い」を読み上げた被爆者代表の城臺(じょうだい)美彌子さんを自宅に訪ねると、「黙っていられなかったんです」と打ち明けた。6歳のとき、爆心地から2.4キロの自宅で被爆した。「孫世代の子どもたちを戦場に送ったり、戦禍に巻き込ませたりすることはあってはならない」と語る。

式典後、自宅の電話や携帯電話は鳴りっぱなしだった。「私たちの気持ちをよくぞ言ってくれた」。被爆者仲間や全国から「感動した」との声が相次いだという。

広島で被爆者7団体が集団的自衛権を撤回するよう求めたのに対して、安倍首相はただ「見解の相違」と述べて立ち去った。これが現在の日本の首相の態度である。広島・長崎の被爆者だけでなく、国民をなめているのではないか。

今年の8月は、例年以上に「戦争と平和」を考えさせられる。

(2014年8月20日)

